

ぶらっと関西

の筆者・平藤清刀さんの介護体験 #1

親父が認知症に!?

母の話によると、父は昼食を摂った後「会社へ行く」と言って自宅を出たそうです。もちろん会社勤めはとっくにリタイアして年金暮らしをしている父に、行くべき会社なんてありません。

じつはこの日の朝も「家に帰ると言ってお出かけして行ったのですが、お昼前には帰ってきたそうです。ですからこのときも「また帰ってくるだろ」と、母はさほど心配していませんでした。それが生きて玄関を出て行った最後の姿になろうとは、家族の誰も予想だにしていなかったのです。

■小さな異変は3年前から

私と両親とは別居していますから、そのときの様子を

つぶさに見ているわけではありません。3年前の2015年(の1月3日だったと記憶していますが、夕食を両親と一緒に摂るために実家へ帰ったとき、母が父を指して呆れたようにこんなことを言いました。

「お父さんったらボケてんでね。正月も3日過ぎてるのに『大晦日やのに新聞は来ないのか』やて(笑)」。そのときは「歳をとったんやなあ」と笑い飛ばしていたのです。ところがそれは、これから始まる異変の序章にすぎませんでした。

1月10日の夜にも同じようなことを言うので、母は新聞の日付を見せたそうです。すると父は「えっ、もう10日か?大晦日やと思ってた」と本気で驚いていたとい

ます。そして放火を警戒して回収の当日まで外へ出さず玄関に集積してある古新聞の束を、視界に入るたびに「これ出しておこうか」と母に尋ねるのです。父は親切のつもりなのでしょうけど、母は「何回訊くの!?!」もう4回もおんなじこと言うてるよ」と、さすがにキレ気味。父は80歳を過ぎても体は健康で、酒もたばこも嗜みません。でも決して下戸ではありません。20年ほど前に糖尿病の診断を受けたその日から、酒もたばこもピタッとやめたのです。

しかし頭のほうはどうなんだろう? 嫌な予感があったので、念のために認知症の検査を受けさせるよう母に勧めました。

(次号に続く)